

(公印省略)

2023年1月 1 日

23福岡県コミ発第1号

福岡県下の成人指導者の皆様

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

福岡県コミッショナー 郡島 三暁

よりよいスカウティングに向けたスカウトへのスマートネスの指導について(お願い)

三指

謹んで新春のおよろこびを申し上げます。今年もスカウト運動の維持発展のために、皆様のご支援、ご助力をお願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が広がって、はや3年が経とうとしています。この間、団相互の交流が少なくなり、多くのスカウトが一堂に会する機会が減りました。このことによって、団内で独自の文化が生まれ、それがスカウトの姿に表れてきている状況が散見されます。

具体的には、制服の着方や「ちかい」「おきて」の唱和の仕方など、スカウト仲間では根幹として共有すべきことが、団によっては微妙にずれている姿が見られています。

年頭にあたり、今一度スカウトに「スマートネス」の指導として、下記の事項を徹底していただきますようお願いいたします。

今年は、第25回世界スカウトジャンボリーが開催され、他県・他国のスカウトと接するスカウトもたくさんいます。その際に自信を持って送り出せるよう、お願いいたします。

彌榮

記

○重点指導依頼事項 「スマートネス」の指導

※ここでいう「スマートネス」とは

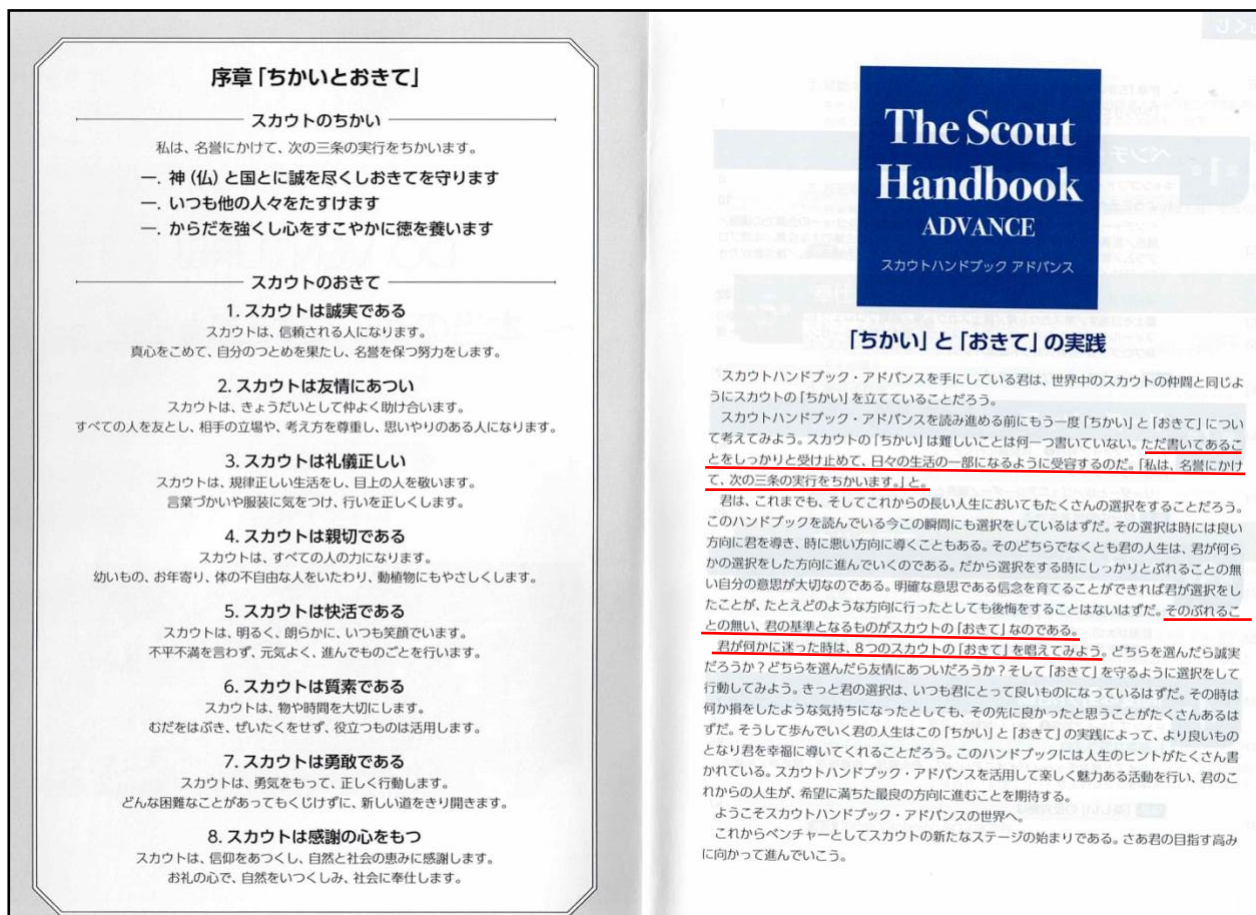
「ちかい」と「おきて」(BVS「やくそく」と「きまり」、CS「やくそく」と「さだめ」)を姿や言動に表れている姿のこと。容姿を指すものではない。(教育規程7-1参照)

○具体的な指導内容

- 1 正しくスカウトサインをして、「ちかい」と「おきて」(BVS「やくそく」と「きまり」、CS「やくそく」と「さだめ」)を正しく述べること
- 2 日本連盟規程をもとに、制服を正しく着用すること
- 3 「ちかい」と「おきて」を実践すること

※別添資料を参考にご指導ください。

【別添1】「ちかい」と「おきて」を正しく述べる(BS 以上)



(「スカウトハンドブック・アドバンス」より)

- 傍線部分を読むと、スカウト自身に「ちかい」と「おきて」を落とし込ませるように指導することが、指導者の役割であることがわかります。
- スカウトが自分自身で「ちかい」と「おきて」を胸に日常生活を送るのですから、「ちかい」のはじまりは「私」を「わたくし」と読むのが適当です。「わたし」ではありません。
- 「おきて」には番号が振ってあります。「いち」「に」「さん」・・・と、番号まで述べさせるようにしましょう。「4」「7」の読み方に指定はありません。以前は「し」「しち」と読んでいましたので、長年指導者をされている方は、そのように読ませる指導をされていると思います。現在は、指定がありません。
- 「ちかい」と「おきて」を実践する姿が端的に表れるのが、「制服の着方」と指導すると、制服指導が行いやすくなります。
- カブスカウトの「やくそく」と「さだめ」、ビーバースカウトの「やくそく」は「きまり」は、「ちかい」と「おきて」とは意味合いが異なります。したがって指導も異なることに注意してください。

【別添2】CS「やくそく」と「さだめ」、BVS「やくそく」と「きまり」を正しく述べる

○傍線部分がポイントです。

③ カブスカウトの進歩制度とデンリーダー

(1) カブスカウトのやくそくとカブ隊のさだめ

やくそく

ぼく(わたくし)は
まじめに しっかり やります
カブ隊の さだめ をまもります

少年が、りすの道を終わって、カブスカウトになるとき、みんなこのやくそくをします。ボーイスカウトのちかいと違うのは、年代特性により自分自身ではなく、カブ隊の仲間、隊長はじめ隊の指導者、保護者にやくそくするものです。自分は心から一生懸命に自分の全力をつくすことを、そして仲間のさだめを守って、よい仲間の一人になることをやくそくして、初めて、ボーイスカウト運動に加わったこととなります。

カブ隊のさだめ

- 1 カブスカウトは すなおであります
- 2 カブスカウトは 自分のことを自分でします
- 3 カブスカウトは たがいに助けあいます
- 4 カブスカウトは おさないものをいただきます
- 5 カブスカウトは すすんでよいことをします

この5つが、カブ隊のさだめです

やくそくがカブスカウトの生活上の信条であり、カブ隊のさだめが、その具体的な項目であることにお気づきになったことで

しょう。

この具体的な項目をさらに実際に体得する方法を示したものを、カブスカウトの進歩制度といいます。

(2) カブスカウトの進歩制度

少年たちは実際何の指導を受けなくても、年上の少年を見習ったり、いろいろな経験をしたりして大人になっていきます。

カブスカウト活動は、それをもっと上手に楽しみながら、効果的に行う方法です。進歩制度について要約すれば、

- (1) 少年たちが普段行っていることを中心に
- (2) 少年たちのやりたがること（エネルギーを発散させるようなことなど）
- (3) 社会人として基礎的な事柄

の3つから組み立てられます。そして、3年生から5年生まで、それぞれの年齢に合わせて、できるだけ無理なく実行できるように、家庭や集会で楽しく行えるようにしてありますので、少年たちの意欲をかきたてながら、自然に行われるよう指導されなければなりません。保護者や指導者が無理に教えこもうとしたり、早くやらせようとしたりすると、カブスカウト活動のおもしろさは失われてしまいます。

(「デンリーダーハンドブック」より)

① ビーバースカウトの「やくそく」

ぼくは(わたくしは)
みんなとなかよくします。
ビーバー隊のきまりをまもります。

ビーバースカウト年代では、「3つのつとめ」のうち、「自分へのつとめ」を中心に設定してあります。「神へのつとめ」と「他へのつとめ」については、「ビーバースカウト活動の目標」(14ページ参照)の中に反映させています。指導者が、この目標をふまえて隊活動を行い、子どもたちがビーバースカウトの「やくそく」を守り、ビーバー隊の「きまり」を実行できるように支援することで、子どもたちを「ちがひ」と「おきて」の実現につなげるようになります。

ビーバースカウト年代の子どもたちは、自己中心的な傾向が強く、また、そこから少しずつ脱却していく段階でもあります。小学校の中学年・高学年、いわゆるカブスカウト年代になると、子どもたちは友だちとの結びつきが強くなり、数人で行動するようになります。(カブスカウト隊では6人を1グループ「組」として活動します)

グループの活動に参加するための第一歩は、まず、その仲間と仲良くなることから始まります。行儀よくさせることも大切ですが、にぎやがにしゃべったり、互いにつつきあったり動きまわったりして、いっしょに遊びながら、誰とでも仲良くやっていくことの楽しさを体験させたいものです。

要なのです。
ビーバースカウトの自分に対するつとめは、元気に動き回り、体力をつけ、明るく心を育てることです。

いろいろなものが簡単に手に入り、多くのものが与えられる今の時代には、ものを大切にすることがかかおろそかになっていきます。ビーバースカウトにもものを大切にすることを理解させたり、この年代から、素直な気持ちで、良い行いをする習慣を身につけさせることは大切なことです。

良い行いは、みんなの前で認められることにより、子どもたちに具体的に理解させることができます。そこから、身のまわりの人々への感謝の気持ちを育てたり、思いやりの心を養うことも、ねらいの一つとしています。

このようなことが、やがて「神へのつとめ」へと育っていくことが期待されます。

ビーバー隊の「きまり」は、ビーバースカウト一人ひとりが自分のつとめとして実行してはじめて、その意義は果たされます。ですから、ビーバースカウトが身近に感じ理解できるように、やさしい言葉で定めています。

スカウト一人ひとりが主体的に実行することができるボーイスカウト年代以上と同様の期待には無理があります。そこで、ビーバースカウト部門では、単なる「きまり」ではなく、「ビーバー隊の「きまり」としました。そこには主体性を押しつつ、スカウト一人だけで実行するのではなく、指導者の支援のもとで仲間とともに実行しようという考え方を込めています。

② ビーバー隊の「きまり」

- 1 ビーバースカウトは げんきにあそびます
- 2 ビーバースカウトは ものをたいせつにします
- 3 ビーバースカウトは よいことをします

ビーバースカウト年代では、戸外で身体を動かし、活発に活動することは、身体の成長を助けるばかりでなく、子どもの情緒を安定させることにもつながります。子どもにとっては、1日のエネルギーはその日のうちに使い果たすことが必

(「ビーバースカウトリーダーハンドブック」より)

【別添3】 制服を正しく着用するように指導すること

○傍線部分が指導のポイントです。

ボーイスカウトの かっこいいユニフォーム

きみのユニフォーム

●スカウトのしるし

- ① 上着は、半そでと長そでがある。
- ② ベルトは、紺色と緑のストライプの布製で、バックル付とする。
- ③ ネッカチーフは、隊で統一して定めた色の三角形の布のものを着用する。
- ④ 制帽は、男子はハット、女子はハットまたは中折れ帽を隊で統一して着用する。帯はいずれも紺色と緑色のストライプの布製とする。ボーイスカウト部門のシンボルカラーは緑色である。

※制服の記章の位置は表紙裏に記載しているので正しくつけよう！

●きみのユニフォーム

ボーイスカウトは、自ら進んで集まった人々がつくっている世界で最も大きな青少年団体である。世界のスカウトの仲間たちはみんな、誇りをもってユニフォームを身につけている。

〈きみがスカウトであることを表す〉

きみがユニフォームを着ていれば、日本国内はもとより世界のどこにいても、きっとその地域、国のスカウトたちが歓迎してくれるだろう。ユニフォームは、きみが「スカウトの仲間」であるしるしとなる。

〈だれもがスカウトとして平等であるあかし〉

スカウトのちがいをたてて、きみは自分の最善の努力をすることを約束した。ユニフォームを着たすべての仲間も等しく、スカウトとして高い理想に向かって努力することを示している。

〈野外で活動するのにふさわしいもの〉

野外で活動しやすいようにできている。例えば、きみが森の中で小動物を驚かすことなく、そっと観察できる自然になじんだ色である。

〈信頼のしるし〉

ユニフォームを知っている人はたくさんいる。そしてユニフォームを着たきみに信頼を寄せられるだろう。それは、きみが自分で考え、行動できる人だと思うからなのだ。

ユニフォームを着るということ

「ユニフォーム(制服)」という言葉は辞書でひくと「学校・会社など一定の団体に着るよう定められている、色や形の定まった服装。(反対語として私服)」と出ている。

ではなぜ私たちは制服を着るのか？統一されていることにはどんな意味や効果があるのだろうか。みんなは学校の文化祭や体育祭でクラスTシャツを作ったことがあるだろう。また、部活動をやっている人は、ユニフォームの他に、おそろいでジャージやポロシャツ、バップ等を作った経験があるだろう。ユニフォームは自分たちの好きなグループの仲間の一員だという所属意識や安心感をもたらすものなのだ。


制服にはもうひとつ、ある資格や基準・規則の「象徴」としての意味がある。例えば航空機のパイロットや警察官であれば勉強をして必要な資格を取らないと制服を着ることができない。つまり制服そのものが資格の象徴となっている。そして制服を着れば、求められる行いや守らなければならないルールがある。ボーイスカウトであれば当然「ちかい」と「おきて」の實踐につとめること、それが「ユニフォームはスカウト運動の象徴」ということなのだ。

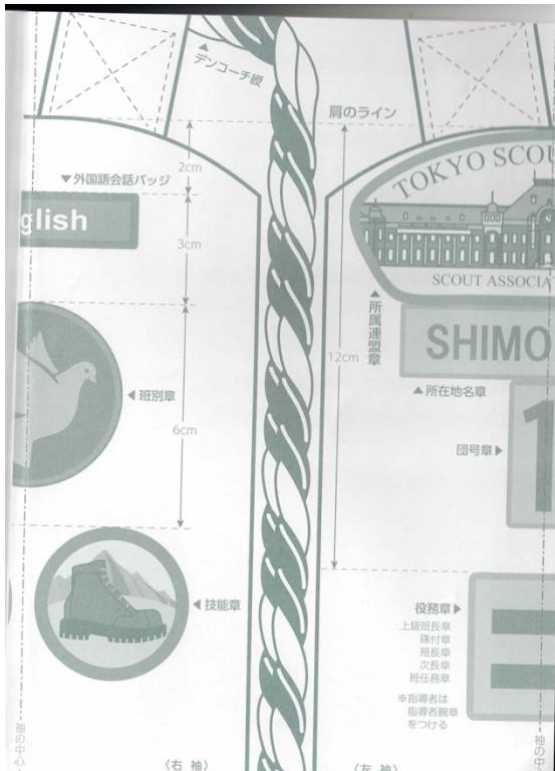
制服はルールで着るものだから個性で着こなす私服とは違う。わたしたちはいつもその点に気をつけて、記章を正しく着けて、気持ちも引き締めて、ユニフォームを着よう。

世界のユニフォーム

スカウトのユニフォームは、もともと野外で活動するのに便利な服装(つば広帽子、カーキ色の半そでシャツ、半ズボン、ストッキング)を基本にしていた。しかし、スカウト運動が広まるにつれて気候や文化の違いから各国にあった様々な制服が決められている。

世界のスカウトの制服は本当に色数が多くて、赤・青・緑・黒・灰・オレンジその他のいろいろある。きみもジャンボリーなどの機会に見かけることがあると思う。きみたちはお互いに「ちかい」と「おきて」を守っているスカウト同士だから、きっと友情を深めることができるだろう。

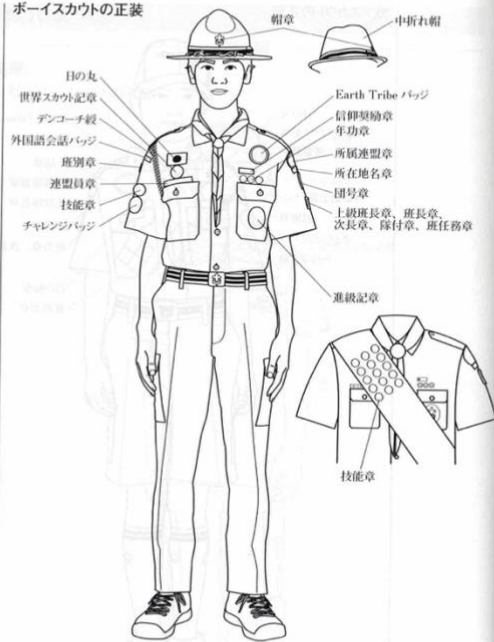




- 肩の記章類は、エポレット(肩飾り)の後ろ側を中心として着用します。
- 所属連盟章は、袖の縫い付け部分に合わせて付けます。
- 所属連盟章と所在地名章・団号章は、間隔を空けずに付けます。
- 役務章は、BSのみ着用します。
上級班長章、隊付章、班長章、次長章、班任務章は、VS以上は着用しません。
- 班別章は、BSのみ着用します。
VSには班がありません。

(「スカウトハンドブック・ベーシック」より)

ボーイスカウトの正装



- ・上着は、長袖も着用することができる。
- ・ズボンは、ブッシュパンツタイプの長ズボンを着用するが、半ズボンおよびキュロットも着用することができる。
- ・半ズボンおよびキュロット着用時の靴下は、ズボンと同系色のものとする。
- ・ベルトは、紺色と緑色のストライプの布製で、バックル付きとする。
- ・ネッカチーフは、隊で統一して定めた色の三角形の布とする。
- ・制帽は、男子はハット、女子はハット又は中折れ帽を隊で統一して着用する。帯はいずれも紺色と緑色のストライプの布製とする。

ベンチャースカウトの正装



- ・上着、ズボン共に、ボーイスカウトと同じ。
- ・ネッカチーフは、ボーイスカウトと同じ。
- ・ベルトは、緑色の布製、又は革製で、バックル付きとする。
- ・制帽は、ボーイスカウトと同じ。

(「日本連盟規程」より)

- ベルトは、ボーイスカウトとベンチャースカウトでは違うことに注意してください。
- 制帽は隊で統一することに注意してください。団で統一する必要はありません。

2] カブスカウトの制服と記章



【その他の留意点】

- 半袖の制服着用の際、寒い場合は、制服の上から重ね着をして、体温調節をするようにしてください。制服の下に長袖を着るなどして、制服の袖口から下着やセーターの袖が出たりすることのないようにしてください。正しい制服の着用が大前提です。
- 寒冷時には、スカウトの健康を第一に考え、半袖姿に無理にさせないように指導してください。場合によっては、ハームとなる場合がありますので注意してください。ただし、TPO を考え統一する必要がある場合は、指揮者の指示に従ってください。その場合の判断でも、スカウトの健康を第一に考えるようにしてください。

(「カブスカウト隊リーダーハンドブック」より)